

市況底打ち観測で先高観強まる半導体関連株



シニア・ストラテジスト 石黒英之

ポイント① 台湾メーカーの業績に明るい兆し

11月に入り日本の半導体関連株指数が世界に先駆けて史上最高値を更新するなど、半導体関連株を見直す動きが目立っています。生成AI（人工知能）が急速に普及するなか、世界の半導体需要が底打ちし、今後回復に向かう可能性が高まりつつあることがその背景とみられます。

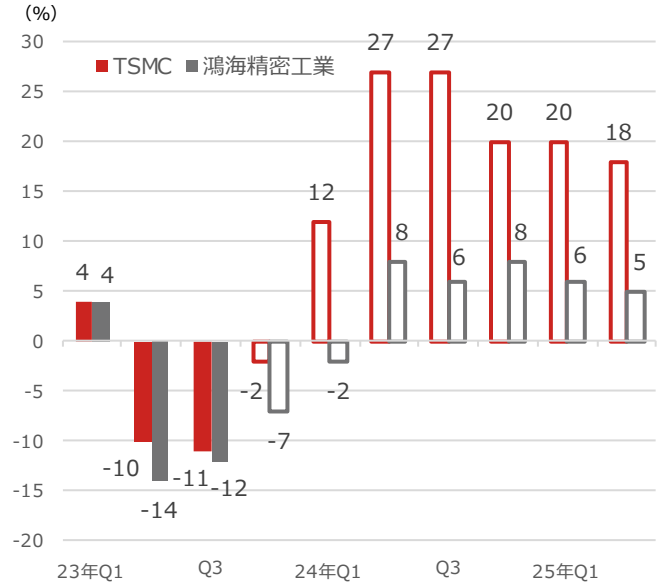
こうした動きを裏付けるように、世界のIT（情報技術）大手に半導体やデジタル製品を供給する台湾メーカーの業績に明るい兆しが見え始めてきました。半導体受託生産世界最大手のTSMC（台湾積体回路製造）の10月の売上高は前年同月比15.7%増と2月以来の増収となり、単月での過去最高を更新しました。iPhone生産で世界首位の鴻海（ホンハイ）精密工業の10月の売上高は同4.6%の減収となったものの、減収幅は9月の19.6%から大幅に縮小するなど、業績は最悪期を脱しつつあるようです。

ポイント② 半導体需要は今後回復する公算

TSMCと鴻海精密工業の四半期業績動向をみると、市場では両社ともに今後業績が回復に向かうとみられています（右上図）。これは来年に向けて半導体関連企業を取り巻く環境が徐々に好転する可能性が高いことを示唆しているといえます。

こうしたなか、主要半導体関連銘柄で構成するSOX（フィラデルフィア半導体株指数）は21年12月につけた史上最高値更新を窺う動きとなっています。SOXと同12ヵ月先予想EPSの動きを重ね合わせると、SOXは同EPSが上昇基調にある間は堅調に推移する傾向があります（右下図）。市場では同EPSが25年末にかけて最高益を更新するとみられており、今後の業績拡大を考えると、SOXの最高値更新の確度は高まっているといえそうです。

TSMCと鴻海精密工業の四半期売上高前年同期比



期間：2023年Q1（1-3月期）～2025年Q2（4-6月期）、四半期
・23年Q4以降はBloomberg予想（2023年11月16日時点）
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

SOXと同12ヵ月先予想EPS（1株当たり利益）



期間：2015年1月2日～2023年11月16日、週次
・○印は2024年末、2025年末のBloomberg予想（2023年11月16日時点）
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

個別銘柄の記載は、特定銘柄の売買などの推奨、また価格などの上昇や下落を示唆するものではありません。

*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。